

第1研究課題 第1A分科会

「教育課程に関する課題」

研究主題 「特色ある学校づくりの推進と教頭の関わり」

—地域とともにある学校づくりを通して—

内子町立内子中学校 城戸玲順

1 研究の概要

内子町は、愛媛県中央部の山間地域に位置し、小学校7校、中学校4校の計11校が存在する。それぞれ、山間部を流れる小田川流域一帯にあり、稲作・果樹等を中心とする農業や林業が盛んな山間・田園地域、蠟搾り等の伝統的な産業により発展してきた商業地域が存在する。近年、少子化により児童・生徒数が減少し、地域内のつながりも希薄になる状況の中、地域を活性化させたいという願いも強く、学校への期待も大きい。

このような中、町内の学校は、令和元年度より4年の期間を経て、各小・中学校を、中学校区（小田、五十崎、大瀬、内子）を基本とした4つの地域に分け、順次地域ごとに学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとしての歩みを始めている。本校を含む内子中学校区域は、令和4年度の設置を目指し、今年度準備期間に入っている。

本研究において、今までの3つの中学校区域の取組・実践を整理する中で、そのよさを学びながら、本校における特色ある学校づくりのための実践をどのように進めるか、また、教頭としていかに関わっていくかを明らかにしたい。中でも、教育課程に関する課題を中心に上げ、地域とともにある学校づくりとはどのようなものか、地域の特色を生かした学びの場を設定するにはどうすればよいかについて、考察していきたい。

2 研究の内容

実践内容	教頭としての関わり
(1) 地域の素材・人材を生かしたふるさと学習の展開（何を学ぶか） ア 地域の思いと学習活動との融合 イ 地域の素材・人材を生かした学習	○ 地域の課題も視野に入れた取組 ○ 素材・人材発掘の方向性の明確化
(2) 家庭・地域とのつながりを大切にした組織づくり（誰が関わるのか） ア 地域コーディネーターの役割 イ 学校運営協議会と各部会の設置	○ 思いや考えを伝え合う「熟議」の場の設定 ○ グループの構築と役割の明確化
(3) 地域とともに進める教育活動の展開（いつ行うのか） ア 各地域行事との融合 イ 日々の取組の工夫	○ 既存の取組を生かした実践 ○ 日々できることにおけるアイデアの創出
(4) つながりの視点を生かして（どのように進めるのか） ア ICT機器の活用による情報発信 イ 広報紙の活用	○ 持続的な情報発信の方法の構築 ○ 町内における情報交換の場の活用

3 教頭としての今後の課題

- (1) 保護者・地域と学校をつながりを持続・発展させるとともに、教職員の組織力を高めるためには、教頭としてどのように取り組めばよいか。
- (2) 実践と並行しながら、業務負担の軽減化をどのように進めるか。